

山口東京理科大学薬学部設置促進  
並びに利活用調査特別委員会記録

平成29年8月25日

【開催日】 平成29年8月25日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後2時10分～午後3時42分

【出席委員】

委員長	長谷川 知 司	副委員長	吉 永 美 子
委員	岩 本 信 子	委員	大 井 淳 一 朗
委員	杉 本 保 喜	委員	中 村 博 行
委員	山 田 伸 幸		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾 山 信 義	副議長	三 浦 英 統
----	---------	-----	---------

【執行部】

副市長	古 川 博 三	総務部長	今 本 史 郎
大学推進室長	松 永 信 治	大学推進室副室長	大 谷 剛 士
大学推進室職員	平 田 崇		

【事務局出席者】

事務局長	中 村 聡	議事係長	中 村 潤 之 介
------	-------	------	-----------

【付議事項】

- 1 議案第73号 山口東京理科大学薬学部増築工事（A棟建築主体工事）  
請負契約の一部変更について（大学）
- 2 議案第74号 山口東京理科大学薬学部増築工事（B棟建築主体工事）  
請負契約の一部変更について（大学）

長谷川知司委員長 ただいまから山口東京理科大学薬学部設置促進並びに利活用調査特別委員会を開催いたします。本日の審査内容は議案第 7 3 号及び議案第 7 4 号で、どちらも請負契約の一部変更ということでもあります。この 7 3 号、7 4 号につきましては採決は別々に行いますが、審議は一緒にしたいと思います。それでは執行部の説明をお願いします。

古川副市長 議案の審議に入る前に、情報が入りましたので、委員会のほうにも説明させていただきたいと思いますので、ちょっとお時間をください。この 3 月に文部科学省のほうに設置の認可の申請をいたしておりました本大学の薬学部の申請につきまして、本日、文部科学省の大学設置学校法人審議会において、設置を可とする答申がなされたという連絡が大学のほうに入りまして、今、大学のほうから取り急ぎ市長のほうに連絡がございまして、今、議長に報告いたしまして、この委員会に報告をさせていただきたいと思います。正式な認可日は 8 月 2 9 日になる予定ということで、8 月 2 9 日以降に文書がこちらのほうに届くということで、懸念といたしますか、待ちに待った大学の認可が滞りなく進んでいるということを、まずもって御報告をさせていただきます。

長谷川知司委員長 大変お疲れ様でした。では、執行部をお願いします。

大谷大学推進室副室長 議案第 7 3 号山口東京理科大学薬学部増築工事（A 棟建築主体工事）請負契約の一部変更について御説明いたします。これは、平成 2 9 年 2 月市議会臨時会におきまして議決をいただき、締結いたしました山口東京理科大学薬学部増築工事（A 棟建築主体工事）の請負契約の金額を変更するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第 2 条の規定により、議会の議決を求めるものがあります。変更後の契約金額は、当初の契約金額 2 1 億 7, 0 8 0 万円を 1 億 3, 1 2 9 万 5, 6 0 0 円増額し、2 3 億 2 0 9 万 5, 6 0 0 円と

するものです。この増額となりました主な原因といたしましては、2点ございます。まず、1点目は、地下を掘った際に、地盤が崩れてこないように、周りの地面の崩壊を止める山留め工事におきまして、施工場所は硬軟の地盤が入り乱れていることが判明し、矢板の試し打ちにおきましても2メートル以上貫入できず、矢板を自立させる深度まで入れ込むためには設計時に選定していた圧入工法では不可能であることが分かりました。このため、種々の工法を検討いたしました結果、当初選定いたしました圧入工法の優位性を損なうことなく、硬質地盤への対応が可能で、地盤への影響が小さい硬質地盤クリア工法に切り替えて施工したことであります。2点目は、掘削土につきましては、設計時におきましては埋め戻し等に利用することとしていましたが、土質試験を行った結果、第4種処理土に判別されたことから、そのままでは埋め戻し土としての使用に不適であったため、土質改良を行ったことによるものであります。このように当該工事の設計時に選定していました工法の変更や新たな作業が発生したことにより工事費用が増額となることから、このたび、これら変更に係る請負契約の仮契約が調いましたので、山陽小野田市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、当該工事の受託業者と工事請負変更契約を締結するため、議会の議決を求めるものであります。議案第74号山口東京理科大学薬学部増築工事（B棟建築主体工事）請負契約の一部変更について御説明いたします。これは、平成29年3月市議会定例会において議決をいただき締結した山口東京理科大学薬学部増築工事（B棟建築主体工事）の請負契約の金額を変更するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を求めるものであります。変更後の契約金額は、当初の契約金額18億2,520万円を4,087万5,840円増額し、18億6,607万5,840円とします。この増額となりました主な原因といたしましては、2点ございます。まず、1点目は、地下を掘った際に、地盤が崩れてこないように、周りの地面の崩壊を止める山留め工事におきまして、施工場所は硬軟の地盤が入り乱れていることが判明し、矢板の試し打ちにおきまし

ても2メートル以上貫入できず、矢板を自立させる深度まで入れ込むためには設計時に選定していた圧入工法では不可能であることが分かりました。このため、種々の工法を検討いたしました結果、比較的浅い位置に基礎掘削工事に耐え得る地盤が確認できたことから、不良土質を安定処理するためにスタビライザーを用いて表層地盤改良を行うスタビライザー工法に切り替えて施工したことであります。2点目は、掘削土につきましては、設計時におきましては埋め戻し等に利用することとしていましたが、土質試験を行った結果、第4種処理土に判別されたことから、そのままでは埋め戻し土としての使用に不適であったため、土質改良を行ったことによるものであります。このように当該工事の設計時に選定していました工法の変更や新たな作業が発生したことにより工事費用が増額となることから、このたび、これら変更に係る請負契約の仮契約が調いましたので、山陽小野田市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、当該工事の受託業者と工事請負変更契約を締結するため、議会の議決を求めるものであります。以上、御審議のほど、よろしくお願いいたします。

長谷川知司委員長 質問がありましたら。

山田伸幸委員 この二つの議案が、非常に金額の差が大きいんです。しかも片方は硬質地盤クリア工法、片方はスタビライザー工法ということなんです。この金額の違い、工法の違い、これをまず説明してください。

平田大学推進室職員 先般の委員会で地盤の支持地盤が山のほうに向かって深くなっているということはお話したと思います。山のほうに近いところのA棟につきましては支持地盤が10メートル。それからB棟、海辺に近いほうが5メートルというところで支持地盤がございました。当初、地質調査によりますとA棟側につきましては表層地盤はちょっと固かったんですけど、50センチから1メートルぐらい掘りますと、その下はシルト層になっておりまして、くい打ち機で、くいでんどもんでおりますと

全部古洞の中に、水が中に逃げて行って、くい打ち機が一度転倒しかけたという事例もありまして、軟らかい地盤に対しては矢板を圧入、上から矢板をぎゅっと押さえまして、支持地盤まで達せようということで考えておりました。しかし、実際やってみますと、地質調査についてはそういう状況があったんですけれども、途中、くい打ち工事を始めたときから、ちょっと様子が全般的に地質調査の状況とは違う。全般的には一緒なんですけれども、部位的にはかなり違うということが、軟弱な地盤と固い地盤が入り乱れているということがくい打ち工事のときに分かりまして、そのころから矢板打ち込みについての検討を始めておりました。A棟につきましてはⅢ型の圧入工法ということでやりましたけれども、矢板が下に圧入では入らないことから、クラッシャーパイルというんですけれども、下をかみ砕きながら、それをどんどん下のほうに掘り下げていくという工法でやろうかということでありました。その途中に、ほかに方法、ちょっと余りにも金額的に、全長が300メートルあるので、金額が張るというのは分かっていたんですけど、ちょっと余りにも金額が高いので、ほかに工法はないものかということ、そこで今スタビライザー工法というのを、若干ちょっと安くなるんですけど、それを見つけてきまして、その比較をいたしました。クラッシャーでやる部分の矢板につきましては進行速度が非常に遅いために、工期もありましたので、何とか2か月以内に抑えたいということが、当初の計画であったものですから、クラッシャーのシートパイルにつきましては機械を2台入れて48日。それから、後ほど出ましたB棟につきましては深度が5メートルでしたので、スタビライザー工法を適用しようということで、ほとんど同時に浅いと深いということで始めたわけですけど、スタビライザー工法につきましては速度が非常に速くて、途中でA棟のほうにも、ちょっとこの工法に変えてみると、もっと早く進行できるがということでありましたけれども、スタビライザー工法というのが、どういう工法かといいますと、ちょっと口で説明するのが難しいんですが、バックフォークとかブルドーザーのキャタピラをイメージしてもらおうとありがたいんですが、それをバックフォーク、ユンボの先に長尺物のキャタピラみたいな

のを付けまして、それで土をかいて、セメントと水を混ぜながらガンガン掘って進んでいく工法なんですね。こっちのほうが早くてできるということがあったんです。B棟は5メートルということで、そのスタビがすぐ見つかったんですけども、もう一つのほうが10メートルということがありまして、オールジャパンで探しましたが、これが4か月待ちということがありましたので、この工法は採用できないやということがありました。ただ1点、スタビライザー工法の欠点といたしましてはセメントと水を混ぜて土を固めるものですから、完成後にはガチガチになるんですね。ですから、後々よほどの注意をしないと、給排水だとか、下水であるとか、給水であるとか、それを、あっ、しまった、ここを先に抜いておくのを忘れていたということになりますと、そちらのほうが後でまたちょっととても大変なことになるということがありましたので、これらを慎重に検討した結果、A棟は現在のクラッシャー工法、10メートルのクラッシャー工法でいかざるを得なかった。それからB棟のほうも新工法なので、余り飛び付きたくなかったんですけど、工期だとか、納期だとか、お金のことだとか、ということで合わせて、種々に別々の工法を採用したということになります。

山田伸幸委員 その10メートルと5メートルの差が、この金額の差というふうに考えていいんでしょうか。

平田大学推進室職員 ほとんどはそういうことでありますけれど、やはり工法の差の値段の違いというのもございます。

山田伸幸委員 その工法で矢板を入れていくのは、大体ほぼ同じような枚数という面積だったんでしょうか。全域なんですか。

平田大学推進室職員 建物の周囲を土が崩れないように基礎を掘るときには3メートル下に基礎がいますので、この本工事につきましては100メートル掛ける20メートルのA棟。それからB棟も同様に100メートル

掛ける20メートルなんですけど、この周囲3メートルの基礎を掘るに当たります、その周囲に矢板なり、そういった工法で土留め工事をしないと、地質調査の結果からはシルト層がありましたので、泥がどンドン中に入っていて、基礎工事ができないということがありましたので、その建物の周囲、1棟につき300メートルを外周で取り囲んでおります。

杉本保喜委員 この施工した場所というかね、何箇所ぐらいですか。

平田大学推進室職員 施工した場所というのは、A棟が1か所と外周ぐるりです。B棟が外周ぐるりです。それから参考までに申し上げますと、C棟につきましては今B棟とC棟の間が15メートルの距離しかなくて、そこに200トンのクレーンが入ってきます。やはり軟弱地盤が予想されましたので、C棟についてはB棟寄りの壁際につきましては今のこれをスタビライザーで地盤改良して200トンのクローラクレーンの自重に耐え得るような設計とし、残る三方面につきましては、現在オープンカット、矢板はなしで進めております。

山田伸幸委員 このことによる工期のずれというか遅れというか、それは出たんでしょうか。

平田大学推進室職員 工期につきましては影響がございません。

山田伸幸委員 ということは、これがこういった工法を新たにとってやらなくちゃいけないというのはかなり早い時期に分かっていたということなんじゃないかな。それで今になってこの工事変更の金額変更の議案が出されてきたということなんですが、なぜここまで時間が掛かってしまったんでしょうか。

平田大学推進室職員 掘り方、矢板のみでありましたら6月には終わりますの



で、6月議会といいましても4月の中旬にはお金出しておかなくちやならないことがありますので。6月議会には間に合わなかった。それともう一つは後で出ます残土処理の掘り方が終わった掘削土をどうするかという、地中の下の話がございましたので、一応まとめてさせていただきました。

中村博行委員　ちょっと教えてほしいんですが、第4種処理土に判別されたというのは具体的にちょっと分かりやすく教えてほしいんですが。

平田大学推進室職員　この1種、2種、3種、4種というのがございまして、コーン指数という聞き慣れない言葉があらうかと思えますけども、このコーン指数というのが土の状況によって分類されます。これは1平米当たりどれぐらいの耐力があるかというのが一つの目安になっているんですけども、第2種処理土というのが1平米当たり80キロ以上、それから第3種が1平米当たり40キロ、キロニュートンだから40キロですかね。400キロニュートン、ちょっと単位済みません。2種処理土につきましては800キロニュートン以上、第4種処理土というのが200キロニュートン以上ということがありまして、現地の土につきましては一度現地御案内したことがあらうかと思えますけども、べちゃべちゃ土でございましてそのコーン指数というのはA棟が232、B棟につきましては376という数字が出ました。したがいまして、第4種の処理土は200以上400未満で第3種処理土というのは400以上ということになっておりまして、第4種の処理土に該当するということがあります。その第4種の処理土とはどういったものかということをおっしゃると、盛り土や埋め戻しには不適切であるということで、評価されておりまして、それによりましては適切な処理方法、含水比を下げるとか粒度調整するとか機能付加するとか安定処理をすることによって、200を800まで上げなくてもいいんですけども、600等々ぐらいいまでそれを上げまして、埋め土として基礎の後、埋める分について利用するということがあります。ちなみに私のほうの試算をしましたと

ころ、全て掘った泥を汚泥処分をして外に出しまして、埋め戻しの土を購入した場合には1億8,500万かかります。それから埋め戻しをするに当たっての必要量のみを改良して残りを汚泥処分として外に出すといったときが1億4,100万円。全てを改良して残りを残土処分、つまりは汚泥のまま出しますと産廃扱いになるので処理費用が高いですけども、残りを改良土として出した場合には7,940万円ということで試算が出ておりましたので、一応全部を改良して、残りを外に出したほうが安いのかなと。現在のところではせつかく改良したものですから、後に整備をするグラウンドであるとかテニスコートであるとかそちらのほうに流用しようという考えでおります。

大井淳一郎委員 埋め戻しの土の購入とかいう話があったんですが、今それはこの議案には含まれていない、まだ新たに費用が発生するんですか。(発言する者あり) しないということによろしいんですかね。この中に全部それも入っちゃいますか。ちょっとそこを。

平田大学推進室職員 おさらいをさせていただきますと、全部埋め戻し土を全部買ってくると1億8,500万円かかるんで、それをやめようよと。それから必要量のみを改良して残りを汚泥処分として産廃扱いで外に出すと1億4,100万返るんでこれもやめましょうと。つまりは残る全部を改良して残りを普通土として処理するほうが安いので、1番安い方法の全部を取りあえず処理をして後は残土処分としてやるほうがいいんじゃないかという結論に至ったということでございます。

大井淳一郎委員 質問が悪かったですね。要はそういった最善の方法を取り入れた結果、この額ということによろしいですね。

岩本信子委員 A棟のほうで1億と言われて、先ほど言われたように硬質地盤クリア、クラッシャー工法とその土地改良と、そしてB棟のほうはスタビライザー工法と土地改良と。土地改良というのは入っていると。同じ

値段なんですか、両方とも。土地改良費というのは。何立米あって、そして幾らの予算を取っている、A棟には土地改良費は幾らというふうなのが分かりますか。1億何ぼの中で。

長谷川知司委員長 今岩本委員言われたようにA棟、B棟それぞれクリア工法とかは幾ら、スタビライザー幾ら、土地改良は幾ら、幾ら、土質改良こういうのは一覧表っていうのは作っておられませんか。（発言する者あり）

岩本信子委員 そのこのところをちょっと教えていただけたらと思うんですが。

平田大学推進室職員 アバウトでちょっと申し訳ないんですけども、まず岩本議員が周囲を土留め工事をやるということと、中を基礎を掘って、泥を出すということがどうも混同しておられるようなので、それは別の話です。（「でしょ」と呼ぶ者あり）別の話です。それをざっくりと申し上げますと、A棟につきましては矢板クラッシャーパイルで約1億、B棟につきましてはスタビライザー工法が4,000万、ちょっとこれに諸経費がかかってくるんですけども、それにあとは地盤改良、これにつきましてはもう少し細かく、詳しく説明いたしますと、実は地盤改良に要する機械、これは両方でA棟、B棟機械は1台でやりました。それにかかる経費が約8,000万です。かかった経費が8,000万です。それをA棟が掘削した、出した土量、それからB棟で出した土量、これを案分して金額を分けております。今の地盤改良、泥の改良につきましては、1日に400立米の処理能力がございましたので、埋め戻しにする1日当たりの量、これはよくやっても150立米とかそういったものですから、それにつきましては十分賄える量を今の理科大の雑種地のほうで日々400立米の処理をしておりましたので、工期的には全く問題ございませんし、むしろ機械を1台でやったほうが安価で済むということから1台で処理をいたしまして、それを金額的に案分したということです。それから今のA棟とB棟の矢板につきましては、ちょっと諸経費

が入っていない額で申し訳ないですが、約1億と4,000万です。B棟が4,000万です。B棟につきましては、A棟の深さが半分であったということで約2,000万の違いはございました。

岩本信子委員 今値段の違いとか工法の違いで深さの違いとかいうことも分かったんですけど、まずクラッシャー工法で適正価格かどうかという、この1億円今言われたいね、土地改良の別に。そうするとこれが適正価格なのかということが私どもは知りたいんですけど、価格の調査とかいうことはどのような形でされるんですかね。

平田大学推進室職員 単価的には我々、建設物価という刊行物があるんですね。積算資料であるとか、それを基にして値段を出しております。

山田伸幸委員 今回のこの工事で更にA棟とB棟の工事費が開いていったんですけど、結局建設の単価というのは平米当たりでいうと幾らになったということなんでしょうか。もし分かれば。

平田大学推進室職員 平米当たり単価というのをやりますと、今の金額変更に伴う総額、それと面積が2万1,000平米ございますので、契約金額の差を2万1,000平米で割ると出ますのでこれちょっと後、計算してお渡しします。

山田伸幸委員 それと工期的には問題ないというふうに先ほど言われたんですけど、今現在見ても工事現場よくちよくちあの辺通っておりますので見るんですが、A棟のほうはいまだに足場も組み上がってなくて、B棟のほうはかなり足場が組み上がって、もうそろそろパネルが入ってくるのかなというふうに見れるんですけど、その辺での差というのはどういったところから出てきているんでしょうか。

平田大学推進室職員 私もA棟とB棟が立ち上がりが目に見えて違うので、あ

ちこちでよくその質問を受けるんですけども、A棟につきましては厨房それから分析センターという機器を置くところの下に地下ピットが要るんですね。A棟とB棟を比較いたしますと、コンクリートのボリュームにして400立米、400立米というのはどれぐらいのことを言うかという、私は市営住宅のアパート専門でしたので、アパートで説明しますと6戸並びの市営住宅、例えば本山であるとか古開作団地とか6戸並びの市営住宅が一つが8メートルぐらいあるんですが、八掛ける六、四十八約50メートルぐらいの長さのものが1階部分のコンクリートのボリューム、これが240立米ぐらいいきます。ですからその1.5階分のボリュームがB棟よりもA棟のほうが多いということで、その辺の差が出てきておりまして、基礎が終わった段階ではこれぐらいの違いは出てくるものだというふうには一応想定は私の中ではしておりました。

山田伸幸委員 いろいろな情報が開設に向けて指摘事項とかいろいろとあって、私が一番気になっているのは、今のままの工事期間が来年2月末までですね、一応完成という予定なのですが、それに間に合わないのではないのかという御指摘がかなり聞こえてきておるのですが、その点については問題ないというふうに考えていいのでしょうか。

平田大学推進室職員 絶対ということは言えませんので、今はそれに向かって皆が頑張っているということだけを報告させていただきます。

長谷川知司委員長 今の件については工程表で現在の進捗率はどれぐらいで、これは当初の予定どおりとかいうのは言えますか。A棟、B棟、C棟について。

平田大学推進室職員 工程表の中ではバナナ曲線というか、その中では枠の中にいるというか、工程どおり進んでおります。

長谷川知司委員長 A、B、Cともですか。

平田大学推進室職員 Cのほうは特にやっていませんが、建築のほうはちょっと余裕が少しあるので、ちょっとまだ工程表の中ではCのほうはまだやっておりますが、これにつきましては十分間に合うということで思っております。

大井淳一郎委員 今の委員長の質問と関連するんですが、結局この議案が本会議を通ったらやると思うんですけども、いつぐらいから始めて、いつ終わるのか。そして、それをやっている間にほかの工事はできないのか、その辺りについて教えてください。

長谷川知司委員長 それはC棟についてですか。

大井淳一郎委員 いやいや全部、A棟、B棟。要はこの議案が本会議で通ったら当然執行されると思うんですけど。

長谷川知司委員長 いや、もうやっています。

大井淳一郎委員 もうやったとは。

長谷川知司委員長 終わっているやつです。

大井淳一郎委員 ああ、そうなんだ。（「行うとなっていないよ」と呼ぶ者あり）認めないとあれか。だからもう終わったということ。（「さっき4月って言っていた」と呼ぶ者あり）ああ、ごめん、ごめん。（「ちょっと確認して」と呼ぶ者あり）確認になるのですが、もう既に工事は終わっているということですか。A棟、B棟、この工事は。

平田大学推進室職員 今の土留めと残土処分については終わっております。

岩本信子委員 先ほど質問したところで、ちょっと確認をとりたいんですけれど、さっき言われたようにA棟のほうの硬質地盤クリアクラッシャー方法は1億ぐらいと。そして片一方のほうは4,000万ぐらいておっしゃいましたね。そうすると、例えば1億3,190万5,600円というA棟が1億の工法で土地改良費が3,100万なのかと。それで片一方のほうは4,087万ぐらいで4,000万で土地改良が87万、そんなことはないなとは思いますが、でも先ほどの説明じゃあ、そういうふうに私はとったんですけれど、ちょっと土地改良費がA棟とB棟、もう一緒に出されているという、案分したと言われた割にはちょっと今の答えとここの金額との差があるんですけど、いかがですかね。

平田大学推進室職員 先ほど申し上げたのが、当初のⅢ型の圧入工法を差し引いた数字を言っていなかったもので、増えた額だけしか言っていなかったもので、これが必要であればちょっと整理をした上で御提示いたします。ちょっと今私の手書きメモと申し上げたのが、ちょっとざっくりとした話だったので、申し訳ございません。

岩本信子委員 私は価格が次から次から出てきて、本当に工法が変わって、開いてみに行かないと分からないところがあったんでしょうけれど、適正価格なのかというところは先ほど言われましたように工事がちゃんとしてあるからそれで見ましたと言われるんですけど、やはりちゃんと工法とその土地A棟はそうで、ここが何立米あって幾らだというふうなやはりきちんとした数字を出していただきたいなと思いますので、よろしくお願ひできますか。だからこの1億3,129万5,600円の内訳。そしてこの4,087万5,840円の内訳をお願いいたします。

長谷川知司委員長 平田さん忙しいときですけど、この数字を出したということは、その資料があるわけですから、それを整理して出していただくと私たちも理解しやすいということですね。

大井淳一郎委員 工法を検討されたということですが、この工法を検討されたのは落札業者ですか。それとも市ですか。どちらですか。

平田大学推進室職員 市と落札業者とその辺のパイルメーカー、それから地盤改良をするメーカーと併せて協議をいたしました。

中村博行委員 こういう目に見えない、表面からは分からない地下のことなので、こういったことが随時起こるんじゃないかという懸念もあるわけですね。そういったことでなし崩しにどんどん工事費が上がるというのもちょっとかなわないことなので、現在でこういったことが想定され得るようなことというのはほかにあるのでしょうか。

平田大学推進室職員 建物につきましては8月に入りましてやっと地盤面まで埋め戻しが終わりました。今から先は目に見えるところばかりでございますので、一応私の中では出てきてもちょっとはりを一本入れようかとか、その程度のことで、ほとんど出ないというふうには認識をしております。施工図もほとんど見終わった段階で大きなところが出てきておりませんので、このままいくのではないかなど。ほかに外的要因というのが特に見当たりませんので、このままいくというふうに思っております。

山田伸幸委員 東京オリンピックの工事現場で突貫工事をする余り働く人に対して大変負担が掛かっているというふうなこともあって、改めて労働基準関係の調査等が入ったというニュースがあるんですけど、当地での工事進捗状況と、この間見たら日曜日でも大分工事をされている人たちが出入りしておられて工事もされていたように見たのですが、その辺での労務管理等、これはどのようにされているのか分かる範囲でお答えいただきたいと思います。

平田大学推進室職員 労務管理につきましては、ちょっと有り難いことだと思っておりますけども、監督署のほうが大きな物件だということがありまして、



ちょこちょこパソコンの管理だとかいうこともチェックに入っておられます。パソコンの管理等は何かというと電源が何時から何時まで付いていたとかいうことで、昨日も私は9時前にあの前を通って帰ったんですけども、その時には電気は消えておりましたので、その辺りはぎりぎりのところでやっておられるのかなというようなイメージは持っております。ただ日曜日につきましては各労務、建築というのは幅が広いものですから、く体工事あり仕上げ工事ありで電気工事あり、それから給排水の工事ありでいろいろな分野に分かれております。ですから、この辺りにつきましては交代でその辺を日曜日で全員、全休というのもありますけども交代でローテーションをしながら工事を進めているということで聞いております。

長谷川知司委員長　それで先ほど言いました工事の内訳の資料ですね。これはすぐに出せますか。出せれば暫時休憩して、その資料が出て再開したほうがいいと思うんですが。どれぐらい掛かりますか。（発言する者あり）私たちが分かる資料がどれぐらいでできますか。30分ぐらい掛かりますか。今、話は進めておりますが、どうしてもその資料というのがないと。それから、前に事務局を通じて工程表とかの進捗率ということも確認をしておきたいということで、よかったら出していただきたいというのがあったんですが、それも併せて出せるかどうか。これはC棟も含めてですね。建築主体でいいですけど。

大井淳一郎委員　あとは工法を二つ示されましたけど、何か図面みたいな分かりやすいものはありますか。そういうのがあれば併せて提示していただくと審査にはいいかなと思うんですが。

長谷川知司委員長　やはりちょっと資料がないと分かりにくい面がありますので。ちょっとここで休憩します。一旦休憩します。（発言する者あり）ちょっと休憩の前に。

岩本信子委員 ちょっと工法と一切関係ないんですけど、財源がちょっと気になるんですけど、これは財源はどのような取られ方をされるんですか。財源内訳。合併特例債か何か使われるのか。

大谷大学推進室副室長 財源といたしましては、この建設事業全般に係りまして学校教育施設等の整備事業と合併特例債と山口県の市町のきらめき支援資金ということで今充てております。

岩本信子委員 いや、この追加の分もね。

大谷大学推進室副室長 そうです。

長谷川知司委員長 じゃあちよつとここで一旦休憩させていただきます。

---

午後 2 時 5 2 分 休憩

---

---

午後 3 時 4 0 分 再開

---

長谷川知司委員長 では休憩を解きまして再開いたします。執行部との話で資料につきましては、今、作っていただきましたけど、建設工法、土留め工法についての詳細な資料が現在間に合いませんでした。そういうことで、この委員会を後日開催したいということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）では一応予備日、9月6日10時からということでそれから再開いたします。では今日はこれまで、どうもお疲れ様でした。

---

午後 3 時 4 2 分 閉会

---

平成29年（2017年）8月25日

山口東京理科大学薬学部設置促進

並びに利活用調査特別委員長 長谷川 知 司